

戦国武将「松永久秀」

戦国時代の梟雄とも呼ばれる武将「松永久秀」の出生や前半生は、確証はなく真偽は不明部分が多いとされています。久秀は初め三好長慶に仕え、1542年(天文11年)頃には三好家中である程度の地位にあったようで、1559年(永禄2年)8月に大和へ侵入。

信貴山城に腰を据えると、国人たちを次々と配下に収めていきました。

1570年(元亀元年)信長が義弟・浅井長政の謀反により窮地に陥った際、久秀が退く信長を京都へ退却させています。

ところが、翌2年8月、筒井順慶らと戦った辰市合戦で久秀は大敗し、勢力は急速に衰えました。

久秀は將軍義昭の企てた「信長包囲網」に加わり、武田信玄が上洛すると、信長に背きました。

しかし、1573年(天正元年)4月に信玄が病没、義昭も信長によって京都から追放され、望みを失った久秀は多聞山城を信長に差し出して降伏しました。

この後の久秀が目立った動きはなく、1577年(天正5年)8月、信長の石山本願寺攻めに出陣中だった久秀は、突然戦線を離脱し信貴山城に立て籠ります。

信長は、息子の信忠を総大将として信貴山城攻めを行い、久秀は大仏殿が焼けた永禄10年10月10日からちょうど10年後の天正5年10月10日に信長が欲しがっていた名器「平蜘蛛茶釜(ひらぐもちゃがま)」を粉々に叩き割ると、城に火を放って自刃したとされています。



しぎとらくん

信貴山城跡からの眺望

おだけ
雄嶽山頂からは、重層的に連なる二上山、葛城山、金剛山(中央部)を見渡すことができます。また、信貴山城と対峙する椿井城があった矢田丘陵を臨むことができます。



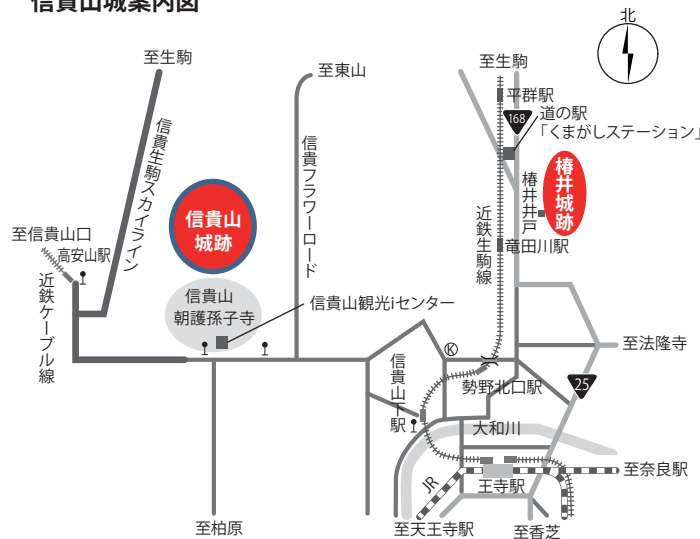
おだけ
雄嶽山頂(空鉢堂)からの眺め

信貴山城址保全研究会

信貴山城や松永久秀の歴史研究など信貴山城址の保全をすすめています。信貴山に関する研究会や信貴山城址散策ルートの整備、イベント開催など積極的に取り組んでいます。無料会員を募集しています。ぜひご登録ください。



信貴山城案内図



お問い合わせ

信貴山観光振興実行委員会

〒636-0923 奈良県生駒郡平群町信貴山2280-1 信貴山観光iセンター内
TEL:0745-44-9855 URL:www.shigisan.org

戦国平群の山城跡

松永久秀ゆかりの山城

しぎさんじょう

信貴山城



信貴山観光振興
実行委員会

信貴山城跡の解説

信貴山城の特徴

信貴山城は、平群谷の西を南北に走る生駒山地の南部にそびえる標高437mの信貴山・雄嶽を中心とする城跡で、南北約700m東西約550mの規模があり、奈良県では最大級の規模を持つ中世城郭です。

築城者については楠木正成とする説がありますが、この頃は城というより小さな砦のようなものと考えられており、本格的な築城は1536年(天文5年)河内畠山氏の重臣で当時家中の実権を握りつつあった木沢長政が行いましたが、同11年3月に三好・細川氏らとの戦いで戦死、信貴山城も炎上し、落城しています。

その後、1559年(永禄2年)に三好氏の重臣、松永久秀が築城して入り、南都に築いた多聞城とともに、大和支配の拠点として利用しました。

信貴山城は基本的に土で造られた城郭で、最高所の雄嶽山頂には小規模ながら天守(高櫓:たかやぐら)が建てられていたと考えられています。

また、北側に延びる主屋根には土塁と門のある居館施設があったと推測され、古地図などには「松永屋敷」の記述が見えます。

1577年(天正5年)、久秀は織田信長に背いて城に立て籠もり、織田勢の大軍に包囲されます。最期を悟った久秀は、かねてから信長の望んでいた名物茶器・平蜘蛛茶釜を粉々に砕いたのち自害し、松永氏は滅亡しました。城はこの後再築されることなく、久秀の死とともに廃城となっています。

戦国の梟雄とも呼ばれる久秀ですが、一方では千利休と茶の師匠を同じくする文化人でもありました。信貴山城跡からは茶臼や石臼の破片が採取されており、久秀の茶道とのつながりが偲べれます。

信貴山見学者の皆さまへお願い

信貴山城跡は中世に築かれた貴重な歴史資源の山城跡で、曲輪や堀切などの城郭遺構が数多く残されています。また城郭一帯は埋蔵文化財包蔵地となっていますが、発掘などの詳細調査は未実施です。

城郭の見学時は、これら貴重な城郭遺構の破壊につながる行為(掘削や発掘など)や遺物の持ち帰りなどは行わないようお願いします。堀切や切岸など急斜面での無理な昇降は危険でもあり、遺構破壊にもつながりますのでお止めください。

信貴山城跡分布図・城郭遺構の紹介



- ◆ 曲輪(くるわ)
山を削り平地とし陣地などに利用された部分で、周りは斜面を人工的に削り、急にした切岸や土塁などで防御されている。
- ◆ 切岸(きりぎし)
曲輪の周りなどで敵兵が安易に登れないように人工的に急にした斜面。
- ◆ 土塁(どるい)
曲輪の縁辺部に曲輪平坦部より一段高く造られた土手で、敵兵から身を隠すために利用したり、柵を築いたりされていた。

